

ID No.	1005
研究課題名	ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究
研究代表者	海堀 昌樹 (関西医科大学・准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀 (東京大学医科学研究所・教授) 中竹 利知 (関西医科大学・助教) 中村 有佑 (関西医科大学・病院助教) 松島 英之 (関西医科大学・研究員)
研究報告 肝細胞癌に対する T-01 の抗腫瘍免疫を介した抗腫瘍効果の評価として、マウス肝癌株 (Hepa1-6) の同種両側側腹部皮下腫瘍モデル (C57BL6) マウスに対し、T-01 の非接種部位に対する特異的抗腫瘍免疫効果の検討を詳細に検討した。C57BL6 マウスにマウス肝細胞がん株 (Hepa1-6) を両側側腹部に同種移植し、片側の腫瘍内に T-01 を投与した。T-01 の非接種部位に対する特異的抗腫瘍免疫効果は、病理学検査 (CD8,CD4) を用いて検討した。皮下腫瘍に対する病理学的検討において、mock 群に対し治療／非治療即の両側ともに CD8 陽性細胞の増加を優位に認めた (CD4 の増加は有意差なし)。今後、肝細胞がんに対し、臨床において主に使用されているソラフェニブとの併用を検討する。 平滑筋肉腫・横紋筋肉腫における検討では、マウス皮下腫瘍モデルでの治療効果の検討を行い、平滑筋肉腫マウス皮下腫瘍モデルにおいて、それぞれ良好な腫瘍縮小効果を認めた。現在、平滑筋肉腫マウス腹膜播種モデル作成中である。 また、神経内分泌腫瘍に対する T-01 治療効果の検討において、in vitro 研究では神経内分泌腫瘍細胞株：QGP-1、NCI-H727、STC-1 の三種において、T-01 ウィルス投与による細胞障害性を認めた。QGP-1(ヒト膵原発 PEC)の in vivo モデルでの検討では、nude マウス皮下腫瘍モデルにおいて、T-01 投与群は mock と比較し、腫瘍の増殖抑制効果の検討を継続中である。	